# 第88回 ISO/TMB
# （技術管理評議会）
# 結果報告


**経済産業省　国際標準課**

**基準認証専門官**

**猿橋　淳子**


**令和５年11月8日**

| | |
|---|---|
| 作成課 | 国際標準課 |
| 性質/作成日付 | 機密性１、令和５年11月８日 |
| 保存期間 | １年 |
| 備考 | 未定稿 |

# 今回のTMBに関して

皆様には、いつも標準化活動にご協力いただきありがとうございます。

- 今回のTMB会合は、シドニー・ブリスベンにおいて対面で開催されました。
- だんだん対面の会議（ハイブリッドも含め）が増えてきており、新旧の人的ネットワークの確立にもつながっているようです。
- SMB/TMB合同で作成した会議開催のガイダンス（欄外URL参照）をご活用いただき、引き続き安心・安全な状態での規格開発にご対応いただけるようお願い申し上げます。
- なお、時差の問題に関してはなくなることがありません。もし、何か困難な事象等が発生しましたら、ご連絡いただければ幸いです。

本資料は決議を要約していますので、正式なものは和訳版のついた英語版でご確認ください。

会議開催ガイダンス https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5401.pdf

# TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（１）

## ●任務

- ●ISO規格作成に関する管理事務的事項
  - ✓TC/SC/PCの設置・廃止、議長任命、幹事国割当、ISO/IEC専門業務指針の改訂等
- ●ISO規格作成に関する戦略的事項
  - ✓規格開発の効率化・迅速化、TC/SC戦略ビジネスプランの審議・承認、TC/SC活動の調整・モニタリング等

# TMBの任務と議長・メンバー・事務局の紹介（２）

## ● メンバー（出席者）

● TMB議長: Mr Javier GARCIA （西）

● TMBメンバー(15名)：

Mr. Steven Cornish (米), Ms. Amanda Richardson (英),
Ms. Petra Scharf (独), Ms. Atsuko Saruhashi (日) Mr. Franck Lebeugle (仏),
Ms. Yubing Li (中) , Mr. Young Jun Moon (韓) ,Mr. Chandan Bahl (印),
Mr. Bruce Farquhar (加), Mr. Jorge Cazajiera (伯), Ms. Karen Batt (豪),
Mr. Cristian Vazquez (亜), Mr. Hussalmizzar Hussain (馬) ,
Ms. Merete Holmen Murvold (ノルウェー), Mr. Marcel Knecht (スイス),

● ISO中央事務局：
Mr. Marco Rossi (部門長), Mr. Antoine Morin TMB事務局長ほか

● オブザーバー：

Mr. Vimal Mahendru (SMB議長), Mr. Gilles Thonet （SMB事務局長）

# 【 決議 71/2023 】　ISO/TC 291 内で開発中の規格への異議申立ての更新

Renewed appeal to standards under development within ISO/TC 291

＜決議要約＞

- 以前に採択された TMB 決議 24/2021 に留意し、ISO/TC 291 に、21364 シリーズの文書が ISO の国際市場性ポリシーを確実に遵守するよう要請をする。
- 2024年3月のTMB会議にこの問題に関する進捗状況を提供するよう要請する。

**＜背　景＞**

2021年に米国、カナダ、日本により国際市場性がないまま規格開発が進んでいると異議申し立てがあり、TMB 決議 24/2021 で、TC 291がCD 21364 シリーズの文書をTSとして発行しつつ、ISO国際市場性ポリシーに従うことを要請した。

2022年にTSを修正し、ISへ変換することが投票により承認されたが、TSの一部を変更したのみであり、異議申し立ての趣旨が考慮されておらず、国際市場性をもつ規格案と言えるものではなかったため、再度の異議申し立てとなった。

**＜審議内容＞**　議題6.1.1

- TC 291が申し立てに対して、全く対応していないわけではないが不十分と認識。
- ISO国際市場性ポリシーのコンセプトは重要であるが、申し立てする側も対案が必要。
- CDのステージで異議申し立てをするのは早いが、注意喚起に感謝し、TC 291には議論を継続するよう伝える。

ISO国際市場性ポリシー：https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5444.pdf

# 【 決議 72/2023 】ISO/PC 343 – 国連 SDGs の MSS に関する更新

ISO/PC 343 – Update on MSS for UN SDGs

＜決議要約＞

- ガイダンス文書を作成するというステップは認めつつ、当初の国際規格の開発を要請する。
- 市場の混乱を防ぐために、ガイダンス文書が MSS ではないことを明示する。
- 2023年末までに名称、業務範囲（スコープ）、業務計画を確認する。
- 2024年3月のTMB会議にて進捗報告をする。

**＜背　景＞**

TMB決議21/2023において、MBが求めている国際規格開発のために、新たなPCである「SDGsマネジメントシステム」の設置を承認。まずは委員会はタイトルとスコープの議論を行い、TMBに報告するよう求めた。

しかしながら、タイトルとスコープ、またISより先にガイダンス文書の作成が進められており、TMB決議やDP1が尊重されていないことが指摘された。

委員会のリエゾンメンバーである国連開発計画（UNDP）は、SDO（規格開発組織）ではないが、UNDPで作成した文書も認証できるものと考え、ISOとのパートナーシップを求めている。

**＜審議内容＞**　議題 6.1.3

- UNDPの文書をISOの文書として発行することは可能だが、 両組織のロゴを記載し発行する場合は、協定が必要。必要に応じてUNDP とISOが協定を結ぶことを検討すること。
- UNDPと戦略的な協力関係を続けるために、UNDPには丁寧な説明し、市場の混乱は避ける。

# 【 決議 73/2023 】　ISO/IEC JTC 1 におけるスマートシティのための情報技術に関する新たなSCの設置

Establishment of a new SC on Information Technology for Smart Cities in ISO/IEC JTC 1

＜決議要約＞

- ISO/IEC JTC 1にスマートシティのための情報技術 に関する新しいSCを設置する。
- 幹事国をSAC（中国）に割り当てる。
- IEC-ISO-ITU 合同スマートシティタスクフォース （J-SCTF） に、スマートシティ分野の活動をレビューし、TMB と SMB に、2024年2月までに推奨事項を提出する。

**＜背　景＞**

JTC 1/WG 11で議論されてきたスマートシティについて，中国からSCの設置を提案があった。

中国提案に対して既存TCとのスコープの重複などが懸念され、賛否両論があり決議案に対する採否で決着を得ることとした。（なお、SMB投票結果が既に承認であることも提示されていた。）

決議案の結果、賛成2/3以上で承認された。

**＜審議内容＞**　議題 6.2.1

- 新SC設置についてはこれまで長期間検討しており、SCの設立は妥当。一方、このような横断的なトピックは、多数のTC/SCとの協働が必要であることを、新SCは認識すべき。
- スマートシティの明確な定義がなく、範囲も広い。
- JTFにはスマートシティのコーディネーションのアイディアを求めたい。

注：SMB会合において否決されており、現在調整中。

# 【決議 74/2023】ISO 19011:2018: マネジメントシステム監査のための指針 の改訂と割り当ての要請

Request for revision and allocation of ISO 19011:2018: Guidelines for auditing management systems

＜決議要約＞

- ISO 19011:2018 – マネジメントシステム監査のための指針 の改訂に向けた ISO/PC 302 の再開を承認し、幹事国をANSI（アメリカ）に割り当てる。
- 委員会に、CASCOとの共同作業グループ（PC主導の下）で作業を実施することを要請。
- 関連するすべての委員会が PC に参加できるよう求める。

**＜背　景＞**

停止中のPC 302の幹事国であるアメリカがISO 19011の改訂のためにPCの再稼働を求めた。

CASCO/CPCグループ（Chair's Policy and Coordination Group）はTMBに対し、適合性評価を包括的に取り扱う役割を担っている等の理由から、本規格の改定はCASCO主導で行うべきという勧告を提出した。

**＜審議内容＞**　議題 6.2.2

- PCが規格改正を希望する場合は、PCを再開するという過去の決議を踏襲するべき。
- ほかの規格との統一性を考えると、CASCOで開発した方がよい。PCで開発するのは、脆弱な感じがある。
- 今回はPCに開発させるが、PC幹事国からの提案である次回以降の改正はCASCOで対応する。

# 【 決議 75/2023 】 ISO/IEC 専門業務用指針第1部統合版ISO補足指針への ISO補足指針の改訂， 附属書 SL，Appendix 2 （MSSのための調和させる構造，及びその利用に関する手引）

Revision of ISO supplement to the ISO/IEC Directives Part 1, Consolidated ISO Supplement, Annex SL, Appendix 2 (Harmonized structure for MSS with guidance for use)

＜決議要約＞

- ISO/IEC 専門業務用指針第1部への統合版ISO補足指針の 附属書 SL の Appendix 2 へ、気候変動に関連する調和させる構造(HS)に対応することを追記。
- 既存のすべての MSS （タイプ A） が遅滞なく効果的な方法で自動的に変更されること。

**＜背 景＞**

ロンドン宣言にコミットしたことに伴い、TMBは、委員会活動に気候変動の考慮を加えるTMBアクションプランを開発し、気候変動の考慮をMSSに加える提案をした。

ISO MSSの幅広い適用と影響のため、TMBは、ロンドン宣言アクションプランタスクフォース（LDAP TF）を通じて、JTCGに対して、Appendix2の改定提案を提出するように要求した。

**＜審議内容＞** 議題 6.2.3

- 誰にとっても気候変動は重要であることは自明であり、わざわざ記載することは必要であるか。
- 明確に記載することでISOがロンドン宣言にコミットしたことがわかる。
- HS（Harmonized structure）に入れることは承認されたものの、それを規格本体に１年以内に追加する手段（改正、追補）、顧客への届け方に関して更なる検討が、TMB外で必要となる。

# 【 決議 76/2023 】次の新活動分野への業務の割り当て: 持続可能な重要鉱物サプライチェーン及び持続可能な原材料

Allocation of work in the following new fields of activity: Sustainable critical mineral supply chains & Sustainable raw materials

＜決議要約＞

- 持続可能な重要鉱物サプライチェーン に関する新しいIWAの開催を承認、幹事国をSAに割り当てる。
- 持続可能な原材料 に関する新しい ISO/PC の設置を承認、幹事国をDINに割り当てる。
- 持続可能な原材料の提案に関して更なる市場ニーズ分析を実施し、TMBに報告するよう要請する。

**＜背　景＞**

豪からのIWAとドイツからの新PCの提案に関して、重複があることが認識されている。

重要鉱物SAGの勧告６には、IWAを開催することが記載されているが、報告書の完成前に、ドイツから、持続可能な原材料のPCが提案された。本SAGは、そもそも重要鉱物TCの乱立を防ぐことも目的の一つであり、報告前に新組織が提案されたことへの懸念表明もあった。

**＜審議内容＞**　議題 6.3.1

- ２カ国で検討し、以下の方法が提案されているが、分析する内容等は両国で調整する
- SA（豪）が事務局を引き受けたIWAから開始し、2024年６月末までに報告を完了する。
- PCは設置を認めるものの、正式な活動は2024年７月からとし、IWAは新PCに引き渡される。
- PCは分野が広いため、NP提案をする前に市場調査を行い、市場ニーズを確認する。また、関連するTC/SCとの調整は、開始し、可能な限り、問題なく開始できるようにする。

# 【 決議 77/2023 】次の新しい活動分野への業務の割り当て: 作物用統合害虫管理 （IPM）及びデータ駆動型アグリフードシステム

Allocation of work in the following new fields of activity: Integrated Pest Management (IPM) for Crops and Data-Driven Agrifood Systems

＜決議要約＞

- データ駆動型アグリフードシステム に関する新しい委員会の設置を暫定的に承認、幹事国をDINに割り当てる。
- 新委員会に対し、作物の総合的病害虫管理（IPM）に関する提案を業務計画に組み込むよう求め、名称と業務範囲を明確にする。

**＜背　景＞**

スマート農業SAGの最終報告書では、データ駆動型アグリフードシステムの委員会の設置することが勧告されていたところ。

中国より農作物の総合的病害虫管理（IPM）の新TC設置提案、ドイツとアメリカより、勧告に基づき、データ駆動型アグリフードシステムの新TC設置提案があり、スコープの重複の懸念が表明されていた。

**＜審議内容＞** 議題 5.3.1

- IPMはMSSであり、データ駆動型アグリフードシステムと内容が異なりギャップがある。そのため、同じTCで扱うことは不可能。MSSのみではない規格開発であり、データも必要なのではないかとの反論。
- SAGの議論の際に、Agri-semantic formatsでIPMはやるべきという意見があり、そうなるとデータ駆動型アグリフードシステムのTCの下で、規格開発を検討することが適切であるという意見多数。

## 【 決議 78/2023 】重要鉱物調整委員会（CMCC）に参加する者の任命

Appointment of delegates to the Critical Minerals Coordination Committee (CMCC)

＜決議要約＞

- 関連する委員会の議長が、CMCCに参加する代表者を任命し、その者が代行することを許可する。

## 【 決議 79/2023 】新しいSPCG 議長の任命

Appointment of new SPCG Chair

＜決議要約＞

- 2023年から2024年の任期の新しいSPCG議長としての Thomas Korssell（IEC/SMB）の指名を承認する。

# ワンポイントメモ：組織名

一般的に以下のように分類。

- TF(Task Force): TMB自らがメンバー。短期間で活動。
- CC(Coordination Committee) : TC/SC議長がメンバー。TC/SC間のコーディネーションが業務。一定期間活動。
- SAG(Strategic Advisory Group): TMBメンバー、MB、専門家などが役割に応じて参加。限定された期間活動。

どのグループもTMBに報告する。

# 報告・討議事項
# （決議なし）

# 5.1.1ロンドン宣言に関連するTMBアクションプランのアップデート

- 背景

2021年9月のISO総会で承認されたロンドン宣言に基づいて、TMB気候変動アクションプランを2022年8月に承認。そのアクションプランを実行するためにTFが設置された。

2023年6月にTFが対面で議論。特に委員会からのフィードバックを確認した。

気候変動への影響が大きいエネルギー関連の約80の規格改正が検討され、担当する委員会は気候変動アドバイザーの勧告を受け、前向きに対応している。

気候変動調整委員会(CCCC)は9月に会合を開き、TF活動の支援に取り組む。

なお、MSSのHarmonized Structureに気候変動を加筆する改正の提案は、TMB決議75/2023（スライド８）で決議。

＜討議内容＞

- ロンドン宣言に関して、気候変動への対応をどのように示すか。気候変動アドバイザーのアドバイスに懸念があるものがあり、それに関してアドバイスを受けたTCが議論する予定。
- TMBロンドン宣言アクションプランに整合するようにすべき。気候変動アドバイザーは、扱われている材料（material）の違いを理解し、TMB決議に記載の投票文書（TMB投票52/2022 ）に整合するようにすべき。

TMBロンドン宣言アクションプラン：
https://www.iso.org/committee/4882545.html?t=nRLqMYDVYSqwS6nBtEPrDaSPggTVBNPDIZRFVZUmADCGPkKt3h_RlxxuPAojLqNd&view=documents#section-isodocuments-top

## 11.1 次回以降TMB会合の日程、場所、議題

- 次回以降の会議等について

次回　第89回TMB会合@ケベック（カナダ）

2024年3月7日-8日

事前会合、ホスト国議長等とのWS、前回会合から続くWS

3月5日-6日

次々回　第90回TMB会合@ジュネーブ（スイス）

2024年6月12日～13日

事前会合、TMB/SMB合同会合

6月11日

# TMBブリスベン会合中の関連会合

## ● TMB Coherence and coordination（統一と協調について）

- 同テーマが複数提案されたため、TCの乱立と内容の重複を防ぎ、統一性や協調、具体的な手段に関する議論。

【検討内容】

- IECでは、提案をまずはSMB内で確認し、問題がなくなり良くならない限りその先に進まない。
- 事前コンサルテーションやSPCGがあるため、提案者に対して適切なアドバイスができる。一方、コメントフォーマットがないため、確認を受けたTCSCはどう対応するべきか、どうしたか、などがわかりにくい。
- 提案者が提出後、事務局や国際幹事が確認してから、TMBに回した方がいいのではないか。
- TPMsは推奨はせず、事実だけを提供。（中立な意見か、なんでもよいとすべきか。善し悪しではなく事実関係を述べるだけの方がよい。）TPMのコメントはバイアスがかかりそう。
- JTCはどうするか。IECの提案もISOで見る？（現状はSPCGから、どちらの提案も共有される）
- スケジュールはどうするか。遅すぎてはいけないが、現状を考えれば先に議論するのはよい？
- 重複排除の手段は、リエゾンかもしれないが、もう少し考える必要がある。
- SAGがある場合は、SAGにもコンサルし確認するが、SAGの結果のために、新規提案を18月も待たせるようなことがないようにする。

SMBに近い、提案者とTMBとのやりとりを増やしたようなプロセスを決定。

# TMBブリスベン会合中の関連会合

- TMB Coherence and coordination（統一と協調について） ＜再掲＞
- TMB事前会合
- 在豪、TC/SC議長・NMC議長とのワークショップ
  - 現在の懸念や、ロンドン宣言などの意見交換
- ESG CCからの発表

９月のTMB会合は一般的に総会中であり時間がないため、前週からいくつかの意見交換を行い、ほかのTMB会合と同様に議論や意見交換・決議ができるよう準備した。

開催国の議長等とのワークショップは、2023年3月の米国開催のTMBで行われ、今回も実施されたもの。2024年３月のTMBも同様のイベントがある予定。

# 通信投票の決議

# 2023年第87回TMB会議以降～2023年第88回TMB会議まで

- TMB決議 56/2023 ～ TMB決議 70/2023

- 56/2023:廃止投票への異議（2023年 第1四半期）– 補遺
- 57/2023:TC議長の任命（2023年5月）
- 58/2023:特殊金属及び鉱物（ISO/TC 345） に関する専門委員会の設置
- 59/2023:TC議長の任命（2023年6月）
- 60/2023:ISO/TC 114/SC 10 の解散
- 61/2023:ISO/IEC 21838-3: 情報技術－トップレベルのオントロジー（TLO） －第3部：言語および認知工学のための記述オントロジー (DOLCE)のためのメンテナンス機関(MA)の承認
- 62/2023:ISO/IEC 21838-4: 情報技術－トップレベルのオントロジー（TLO） －第4部：タッパー のためのメンテナンス機関（MA）の承認
- 63/2023:ISO/TC 339 小型水力発電所 の名称および業務範囲の変更
- 64/2023:ISO/TC 292 の下の エマージェンシーマネジメント に関する新しい分科委員会（SC1） の設置
- 65/2023:廃止投票への異議（2023年第3四半期）
- 66/2023:ISO/TC 10/SC 8 建設関連文書 の再割り当て
- 67/2023:TC議長の任命（2023年7月）
- 68/2023:ISO/IEC専門業務用指針第1部へのISO/IEC JTC 1 補足指針 2023 年版の承認
- 69/2023:CASCO 業務計画 2024 の追認
- 70/2023:ISO/TC 59 の下の新しい分科委員会（SC 20） 建築物及び土木工事のレジリエンスの設置

URL: https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_5807.pdf , (2022)　URL: https://webdesk.jsa.or.jp/pdf/dev/md_6081.pdf(2023)

# 参考
# （ご紹介）

# SPCG（Standardization Programme Coordination Group）について

- 2023年11月にSPCG対面会合をミラノで開催予定。
- 2023年7月にWSをオンラインで開催。

ISO/IEC/ITUにおいて、内容が重複しているTC（SG）設置の回避や、３機関が重複した規格開発の結果、機関毎にほぼ同じ内容の文書が発行されることを防ぐことなどを目的に、2019年夏に設置。（日本からは、当初よりTMB委員が参加。）

①新TC/SGの提案が機関から回覧された際の対応
②既存のTC/SG間で重複やその他問題が発生した際の対応
③SPCGの責任外の問題（著作権、有償無償問題など）は適宜関連部署へ
④SPCGは決定機関（Boards: ISO/TMB, IEC/SMB, ITU/TSAG）に報告
⑤SPCGメンバーは、文書へのアクセス権を持ち、規格開発のためにそれぞれの機関の適切な関係者に文書を送付（著作権等の遵守は必須）
⑥３組織で実行中の同じような案件のTC/SC/SGのリストの作成（Landscape文書）

https://www.worldstandardscooperation.org/
https://www.worldstandardscooperation.org/what-we-do/spcg/

# どのように広報中？

右のイメージに到達したら、下にスクロール！

## SPCG objectives

Coordination of new fields of technical activity:
– Review all new proposals for new fields of technical activity under consideration in, IEC, ISO and ITU's Telecommunication Standardization Sector (ITU-T)
– Identify early areas of common interest (and future challenges) in new standardization activities proposed in the three organizations
– Provide recommendations and mechanisms for coordination, collaboration and joint work to the respective technical boards (SMB, TMB, TSAG);

## Official documents and operational information

SPCG Membership — Download

SPCG terms of reference — Download

SPCG Coordination IEC/ISO/ITU-T (Landscape of fields) — Download

SPCG Key performance indicators — Download

SPCG Effective Coordination Paper — Download

SPCG AI/ML landscape — Download

ランドスケープ文書！

**Landscape of ISO/IEC/ITU-T existing Fields**

Status: 6 December 2021

| Field | ISO TCs[1] | IEC TCs[2] | JTC 1/SCs[3] | ITU-T SGs[4], FGs | Dedicated and other related Coordination |
|---|---|---|---|---|---|
| | • TMB | • SMB | • SMB & TMB | • TSAG | • IEC SMB/ISO TMB/ITU-T TSAG Standardization Programme Coordination Group (SPCG)<br>• World Standards Cooperation (WSC)<br>• Global Standards Collaboration (GSC) |
| **Access Networks, Transport Networks, Optical Networks** | • ISO/TC 204 Intelligent transport systems | • IEC/TC 86<br>• IEC/TC 100<br>• IEC/SyC Communication Technologies & Architectures | • JTC 1/SC 6 | • **ITU-T SG15**<br>• ITU-T SG9 | • ITU/WMO/UNESCO IOC Joint Task Force to investigate the use of submarine telecommunications cables for ocean and climate monitoring and disaster warning |
| **Accessibility, Human Factors, User Interfaces** | • ISO/TC 37<br>• ISO/TC 159<br>• ISO/TC 173<br>• ISO/TC 314 | | • JTC 1/SC 35 | • ITU-T SG2<br>• ITU-T SG9<br>• **ITU-T SG16**<br>• ITU-T SG20 | • Joint Coordination Activity on Accessibility and Human factors (JCA-AHF) |
| **Active Assisted Living** | • ISO/TC 314 | • IEC/SyC Active Assisted Living<br>• IEC/TC 64<br>• IEC/TC 61 | | • **ITU-T SG16** | |
| **Agriculture, smart farming** | • ISO/TMBG/SAG on Smart Farming<br>• ISO/TC 23 | • IEC/SMB SEG on Biodigital Convergence | • JTC 1/SC 41<br>• JTC 1/SC 42 | • ITU-T SG5<br>• ITU-T SG13<br>• ITU-T SG16<br>• ITU-T SG20 | |

# 表彰制度の活用

- ローレンス D アイカー賞
- ISO次世代賞
- ISO優秀賞
- 産業標準化事業表彰

2023年 JTC1/SC 42 AI（人工知能）が受賞。

2023年 Tanzaniaの若手職員が受賞。

参考 https://www.iso.org/iso-awards.html

IECには、ケルビン賞、エジソン賞、1906賞がある。

- ローレンス D アイカー賞：優秀なTCやSCの活動に対して、年に１つの委員会に対して授与される賞。自薦他薦問わず、4月末頃までに申請。受賞委員会は、総会で表彰される。

- ISO次世代賞：18～35歳までの標準化機関の職員に対して、持続可能性などを踏まえた標準化の経験に基づいて申請。毎年一人が受賞し、６ヶ月のISO中央事務局への出向の機会が与えられる。（４月末まで募集中）

- ISO優秀賞：前年に出版された規格に携わった専門家個人に与えられる賞。委員会の国際幹事国を通じて、TPM（ISO中央事務局）に提出する。人数などの制限無し。

- 産業標準化事業表彰
  https://www.meti.go.jp/press/2023/10/20231016001/20231016001.html

# ウクライナ・ロシアについて（前回から変更なし）

**＜事務局長からの連絡＞**

- ロシア**主導**で行われる全会議は通知があるまで延期。ただし、投票用文書の発行、ISO/CSへの原案提出、CIBに関する決議など、その他の委員会活動はすべて許可。

**＜ロシア主導が以下の場合＞**

- CM（委員会マネジャー）
  - 更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
  - ロシアの主導ではないWG、AGは通常通り会議を開催し、活動が可能。
- 議長
  1. CMもロシア：更なる通知まで全会議を延期。重要な決定はCIBで代替。
  2. CMはロシア以外：参加者は会議のセッション議長を選出可
  3. オプション2.が不可能な場合：ISO TPMによる会議の進行を検討。
- コンビーナ
  1. 会議は延期。但し、他のすべての活動は許可。
  2. プロジェクト期限厳守のために会議開催が不可欠と判断された場合：
     - 親委員会（TC/SC）議長（ロシア以外）が対応　　または、
     - WGの専門家が、会議のセッションコンビーナを指名可能。

  3. オプション2.が不可能な場合、ISO TPMによる会議の進行を検討。

# 笑顔のメンバー

# ありがとうございました

経済産業省～「標準化・認証」の紹介ページ

https://www.meti.go.jp/policy/economy/hyojun-kijun/index.html

日本産業標準調査会ホームページ

https://www.jisc.go.jp/